

馬産の歴史

馬と暮らした時代

歴史の散歩道

飯館村は馬産が盛んな地域でした。山中郷と呼ばれていた江戸時代には、藩営の牧場が延べ2000ヘクタールほどあり、農耕や小荷駄(荷運び)に適した馬を産出していたと伝わります。

明治11年には県内一円をまとめる福島県馬産会社が発足しましたが、不安定な経済情勢に翻弄され同26年に解散。代わりに各地に馬産組合が置かれました。

明治11年には県内一円をまとめる福島県馬産会社が発足しましたが、不安定な経済情勢に翻弄され同26年に解散。代わりに各地に馬産組合が置かれました。

家族総出で世話して暮らした馬と人との関わりは深く、村内には馬頭観音の碑や馬頭観音堂が今も数多く残ります。



馬頭観音は馬の供養に個人や講中が建てました。写真は丘の上の馬頭観音堂に続く鳥居(飯樋町)。



市の様子。市は「おせり」と呼ばれ、道の両側にたくさんのお店が出て祭りのようににぎわっていたそうです。



交流センターではさまざまなジャンルの書籍・雑誌・絵本を貸し出しています。ぜひご利用ください。

人生のどん底にいる主人公・奈緒は、10歳の息子・涼介を連れて故郷へ帰ります。すると、年離れた父親が事故に遭ってしまいます。看護師の免許を持ちながらも医療現場での経験がない奈緒は、父親が入院する病院で働き始めます。独居高齢者の暮らし、終末期医療、介護等、過疎地域の現実がひしひしと伝わってきます。満天のゴールにたどり着くために、私達はどうか生きていけばよいのか。作者に看護師の経験があるからこそ、物語の内容はともリアル。読めば死生観が変わる1冊です。



「満天のゴール」著者・藤岡陽子 出版社・小学館

おすすめ図書を紹介いたします

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

いいたて イノサル通信

伊丹沢モデル事業報告

～役員会での検討と柵による防除試験～

8月号のイノサル通信『野生動物を撮る』でも少し触れましたが、伊丹沢地区をモデル地区として、住民が行う鳥獣対策を支援しています。前回触れた内容は、私たちが支援として行っている調査についてでしたが、今回は住民の方々と一緒に行った取り組みを紹介します。

■ 地区役員会での聞き取りと対策検討

現在までに2回、役員会に参加させてもらい、センサーカメラ調査等の報告、被害状況の聞き取り、地区に合った対策の検討を行いました。被害状況を聞くと、やはりニホンザルによる被害が多く、侵入を防げるはずの複合柵(下部に金属メッシュ柵、上部に電気柵)を設置しても、農地に侵入されてしまうとのことでした。また、追い払いを実施している方もいますが、あまり効果を感じていないようでした。

そこで、皆で話し合い、まず以下の2つをやることになりました。

- ① 柵による防除試験：ニホンザルによる被害が出ている農地の柵を改善し、センサーカメラにより動物の侵入を監視しながら、こまめな見回りと手入れをします。その結果から、効果のある防除柵の設置と管理を明らかにします。
- ② 目撃及び追い払いの情報収集：住民からニホンザルの目撃情報、追い払いの実施状況、それに対するニホンザルの反応などの情報を集め、追い払い含め、今後の対策を考える材料とします。

今回は上記の2項目の中から、柵による防除試験の取り組みを紹介します。

■ 柵による防除試験

試験を行う農地は、道路より低い所にあり、また、柵と電柱や倉庫が近いことから、柵の上部から飛び込まれている可能性があります。また、金属柵の上部と電気柵の線の間隔が広がっている部分もありました。

改善として、ニホンザルの足場になる道路の法面や倉庫などから柵を3m以上離すため、外周を一回り小さくし設置し直しました(下の写真を参照)。その際、電線の間隔を狭く、一定になるよう調整しました。これにより飛び込みや電気柵の線の隙間からの侵入が防げるはずでした。



柵による防除試験の結果や、今回詳細を紹介できなかった目撃及び追い払いの情報収集については、次回以降のイノサル通信等でご報告します。

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する鉄谷さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

鉄谷 龍之 さん

平成31年4月から同支援員。令和3年から飯館村の鳥獣対策に携わり、今年度から村の主担当。専門は野生動物管理・鳥獣被害防除。